

3. クサマルハチ

九州南部～琉球列島に分布する。常緑の大型シダで山林中の腐植質の多い地上に生育する。
調査では、土砂採取区域の樹林で延べ 12 個体が確認された。

4. オオアマクサシダ

種子島、屋久島～琉球列島に分布する。常緑のシダ植物で山地の森林中に生育する。
調査では、土砂採取区域の樹林で 1 個体が確認された。

5. ヒカゲアマクサシダ

本州の三重県、九州南部、種子島、屋久島に分布する。常緑のシダ植物で山地の樹林中に生育する。
調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で多くの個体が確認された。

6. カワリバアマクサシダ

屋久島～琉球列島に分布する。常緑のシダ植物で山地のやや乾いた林縁に生育する。
調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で延べ 12 個体が確認された。

7. ヤクシマハチジョウシダ

九州南部、屋久島、種子島、口永良部島、トカラ列島に分布する。常緑のシダ植物で山地の森林中に生育する。
調査では、土砂採取区域周辺の樹林で 6 個体が確認された。

8. オオタニワタリ

伊豆諸島、紀伊半島、四国の徳島県、九州南部～琉球列島に分布する。常緑のシダ植物で、やや陰湿な山林中の樹幹、岩上に生育する。
調査では、飛行場及びその周辺、土砂採取区域及びその周辺の樹林で多くの個体が確認された。

9. ホソバオオカグマ

種子島、屋久島～琉球列島に分布する。常緑のシダ植物で山林中の地上に生育する。
調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で多くの個体が確認された。

10. キノボリシダ

種子島、屋久島、琉球列島に分布する。亜熱帯の山地の林下に見られる常緑のシダ植物である。
調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で多くの個体が確認された。

11. オオバミヤマノコギリシダ

本州の神奈川県以西、四国、九州、種子島、屋久島に分布する。常緑のシダ植物で山地の林下に見られる。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で 12 個体が確認された。

12. クワイバカンアオイ

屋久島の固有種で、分布域は堆積岩の熊毛層群の地域にほぼ限定している。常緑の多年草で常緑広葉樹林の林床に生育する。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林の林床で多くの個体が確認された。

13. マルバニッケイ

福岡県(大島)、鹿児島県(大隅半島、薩摩半島、種子島、屋久島、トカラ列島)、沖縄県(硫黄島)に分布する。常緑の小低木で岩場海岸の風衝地に多い。海岸低木林植生を形成する。

調査では、飛行場周辺に多数見られており、一部ではマルバニッケイ群落が形成されていた。

14. ヤマコンニャク

四国、九州、種子島、屋久島、トカラ列島、奄美大島、沖永良部島に分布する。地下に球形の塊茎を有する夏緑の多年草で、やや湿った森林の林床に生育する。

調査では、飛行場及びその周辺樹林で 12 個体、土砂採取区域及びその周辺樹林で 5 個体が確認された。

15. シロシャクジョウ

本州の近畿～九州、琉球列島に分布する。腐植質の溜まった林床に生育する白色の菌従属栄養植物である。

調査では、土砂採取区域及びその周辺樹林で多くの個体が確認された。

16. ルリシャクジョウ

九州南部～琉球列島に分布する。腐植質の溜まった林床に生育する青色の菌従属栄養植物である。

調査では、土砂採取区域内の樹林で 3 個体が確認された。

17. オキナワチドリ

九州南部～琉球列島の固有種である。海辺近くの日当たりのよい草地や岩場の割れ目などに生える小型の地生ランである。

調査では、飛行場周辺で多くの個体が確認された。

18. タネガシマムヨウラン

九州南部、種子島、屋久島、琉球列島に分布する。やや湿った林床に生える地生の菌従属栄養植物である。

調査では、飛行場周辺樹林の林床で 11 個体、土砂採取区域及びその周辺樹林で 31 個体が確認された。

19. ヤクシマラン

屋久島、種子島、トカラ列島に分布する。常緑の多年草で、森林の林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で 6 個体が確認された。

20. ダルマエビネ

九州南部、種子島、屋久島、琉球列島に分布する。菌従属栄養植物で林床に生える。

補足調査（春季）において、土砂採取区域周辺の樹林で 4 個体が確認された。

21. オナガエビネ

九州南部～琉球列島に分布する。常緑の多年草で、低地林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で 3 個体が確認された。

22. ツルラン

九州南部～琉球列島、小笠原に分布する。常緑の多年草で、低地林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、飛行場及びその周辺、土砂採取区域及びその周辺の樹林で多くの個体が確認された。

23. トクサラン

九州南部～琉球列島に分布する。常緑の多年草で、低地林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で多くの個体が確認された。

24. シュンラン

北海道～九州、屋久島、種子島に分布する。常緑の多年草で、森林の林床や林縁に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で 2 個体が確認された。

25. ナギラン

関東～琉球列島に分布する。常緑の多年草で、森林の林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域及びその周辺樹林で 5 個体が確認された。

26. コカゲラン

種子島、屋久島に分布する。菌従属栄養植物で林床に生える。

調査では、土砂採取区域及びその周辺樹林で 11 個体が確認された。

27. イモネヤガラ

九州南部、種子島、屋久島、琉球列島に分布する。菌従属栄養植物で林床に生える。

補足調査（春季）において、土砂採取区域周辺の樹林で 1 個体が確認された。

28. タケシマヤツシロラン

本種は 2012 年に鹿児島県三島村竹島で発見され、2013 年に新種として記載された。これまでに竹島、黒島、中之島、屋久島で記録されている。菌従属栄養植物で林床に生える。

補足調査では、事前調査時に合計 146 個体のオキノヤガラ属が確認された。確認された個体は、いずれも閉鎖花（花被片が開かず、つぼみのまま自家受粉し、結実に至る花）を付けた個体であり、開放花（花被片が開き、他花受粉し、結実に至る花）を付けたものは確認されなかった。標本をもとに同定を行った結果、確認された個体はすべてタケシマヤツシロランであることが分かった。

補足調査第 1 回調査時には、合計 237 個体のオキノヤガラ属が確認された。確認された個体は、いずれも閉鎖花あるいは果実を付けた個体であり、開放花を付けたものは確認されなかった。標本をもとに同定を行った結果、確認された個体はすべてタケシマヤツシロランであった。

補足調査第 2 回調査時には、合計 501 個体のオキノヤガラ属が確認された。確認された個体は、いずれも果実を付けた個体であった。標本をもとに同定を行った結果、確認された個体はすべてタケシマヤツシロランであった。

29. ムロトムヨウラン

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で確認された。高知、屋久島、奄美大島、沖縄に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域周辺樹林で 12 個体が確認された。

30. シラヒゲムヨウラン

徳島、屋久島、奄美大島、沖縄に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域周辺樹林で 13 個体が確認された。

31. ウスギムヨウラン

九州南部、屋久島、奄美大島に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で多数の個体が確認された。

32. タブガワムヨウラン

長崎県福江島及び屋久島に分布する。2015年に屋久島で確認され、その後新種として記載された。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域及びその周辺樹林で17個体が確認された。

33. アワムヨウラン

本州の紀伊～九州、屋久島、種子島、奄美大島に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で1個体が確認された。

34. ミドリムヨウラン

屋久島、九州南部に分布する。菌従属栄養植物でブナ科の樹木が生育する林床に生える。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で23個体が確認された。補足調査（春季）ではさらに広範囲で分布が確認され、合計238個体が確認された。

35. ガンゼキラン

本州の静岡、紀伊半島～九州、種子島、屋久島、琉球列島に分布する。常緑の多年草で、低地林床に生育する常緑の地生ランである。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で7個体が確認された。

36. オオシンジュガヤ

種子島、屋久島～琉球列島に分布する。林縁などに生える高さ30～130cmの多年草である。

調査では、土砂採取区域及びその周辺で多くの個体が確認された。

37. シマチカラシバ

九州南部～琉球列島、小笠原に分布する。夏緑の多年草で、海岸の岩上草地に生育する。

調査では、飛行場周辺で多数見られた。

38. ヤマハンショウヅル

本州～九州、種子島、屋久島に分布する。常緑の木本的なつる性木本で林縁に生育する。

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で14個体が確認された。

39. ナガバヤブマオ

本州～九州、種子島、屋久島に分布する。山地の林縁に生える多年草で、高さ1～2mになる。

調査では、土砂採取区域及びその周辺で多くの個体が確認された。

40. ヤクシマサルスベリ

屋久島、種子島の固有種である。落葉性の高木で谷沿いの明るい場所に生育する。

調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で 16 個体が確認された。

41. キイレツチトリモチ

九州南部～琉球列島に分布する。小型の一年生あるいは二年生の寄生植物で、10 月～11 月頃、高さ 10cm 程度の花茎を地上に出す。海岸付近の低地林内に生育し、トベラやシャリンバイ、ネズミモチ、ハマヒサカキなどの根に寄生する。

調査では、飛行場周辺の常緑広葉樹林で 1 個体が確認された。

42. リュウキュウマメガキ

本州の紀伊半島～九州、琉球列島に分布する。落葉の中低木で斜面下部から谷にかけての林縁や明るい林床に生育する。

調査では、飛行場及びその周辺や土砂採取区域周辺の樹林で多くの個体が確認された。

43. ミサオノキ

本州～九州、屋久島に分布する。常緑の低木で森林の林床に生育する。

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で 2 個体が確認された。

44. ケハダルリミノキ

屋久島～琉球列島に分布する。常緑の低木で森林の林床に生育する。

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で 1 個体が確認された。

45. チャボイナモリ

屋久島～琉球列島に分布する。常緑の小型の多年草で林内のやや湿った所に生育する。

調査では、土砂採取区域周辺の樹林で多数確認された。

46. リュウキュウコケリンドウ

屋久島からトカラ列島、奄美諸島地域の固有種である。越年草で海岸のシバ草原に生育する矮小な草本植物である。

調査では、飛行場周辺 1 箇所 で 50 個体が確認された。

47. シマセンブリ

種子島、屋久島～琉球列島に分布する。夏緑の多年草でやや湿った海岸草原や浜辺に生育する。点在的に生育するが多いものではない。

調査では、飛行場周辺で 100 個体以上が確認された。

48. ヘツカリンドウ

九州南部～琉球列島に分布する。常緑の多年草で、林縁や林床に生育する。
調査では、飛行場周辺樹林で多数の個体が確認された。

49. ホルトカズラ

九州南部～琉球列島に分布する。常緑のつる性木本で林縁等の明るい場所に生育する。
調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林等で8個体が確認された。

50. シマウリクサ

九州南部～琉球列島に分布する。湿地や水田に生育する夏緑の一年草である。
調査では、飛行場周辺で4個体が確認された。

51. リュウキュウモチ

九州～琉球列島に分布している。常緑の小高木で林縁や路傍に生育する。
調査では、土砂採取区域及びその周辺の樹林で6個体が確認された。

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-5 植物（マツバラン）の確認位置図（飛行場及びその周辺）（1）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-6 植物（オニホラゴケ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（2）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-7 植物（クサマルハチ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（3）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-8 植物（オオアマクサシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（4）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

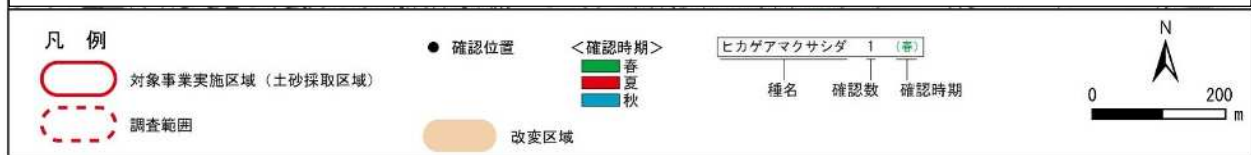


図 6.9-9 植物（ヒカゲアマクサシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（5）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-10 植物（カワリバアマクサシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（6）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-11 植物（ヤクシマハチジョウシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（7）



図 6.9-12 (1) 植物（オオタニワタリ）の確認位置図（飛行場及びその周辺） (8)



図 6.9-12 (2) 植物（オオタニワタリ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺） (8)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-13 植物（ホソバオオカグマ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（9）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-14 植物（キノボリシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（10）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-15 植物（オオバミヤマノコギリシダ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（11）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

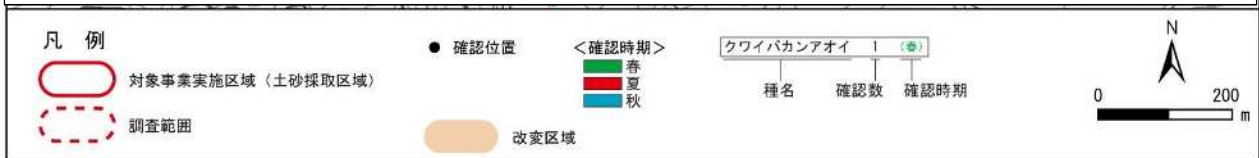


図 6.9-16 植物（クワイバカンアオイ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（12）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-17 植物（マルバニッケイ）の確認位置図（飛行場及びその周辺）（13）



図 6.9-18 (1) 植物（ヤマコンニャク）の確認位置図（飛行場及びその周辺）（14）



図 6.9-18 (2) 植物（ヤマコンニャク）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（14）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-19 植物（シロシャクジョウ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（15）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-20 植物（ルリシャクジョウ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（16）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする

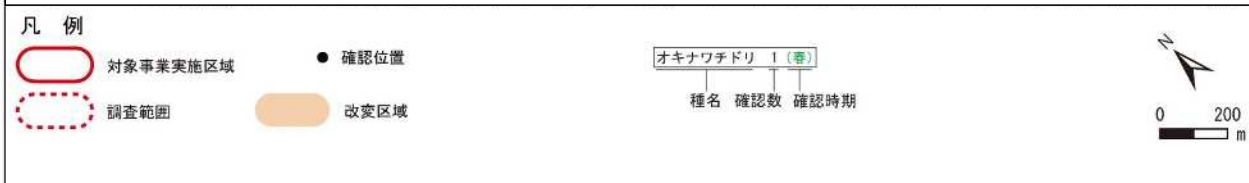


図 6.9-21 植物（オキナワチドリ）の確認位置図（飛行場及びその周辺）（17）



図 6.9-22 (1) 植物 (タネガシマムヨウラン) の確認位置図 (飛行場及びその周辺) (18)



図 6.9-22 (2) 植物 (タネガシマムヨウラン) の確認位置図 (土砂採取区域及びその周辺) (18)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-23 植物（ヤクシマラン）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（19）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-24 植物 (ダルマエビネ) の確認位置図 (土砂採取区域及びその周辺) (20)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-25 植物（オナガエビネ）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（21）



図 6.9-26 (1) 植物（ツルラン）の確認位置図（飛行場及びその周辺） (22)



図 6.9-26 (2) 植物（ツルラン）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺） (22)

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-27 植物（トクサラン）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（23）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-28 植物（シュンラン）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（24）

環境保全上の観点から、確認位置を非公表とする



図 6.9-29 植物（ナギラン）の確認位置図（土砂採取区域及びその周辺）（25）